



まち・みどり・活動部門

くりまゆり

雲南市大東町西阿用



「くりまゆり」ってどんなユリ?興味津々に雲南市大東町の山里を訪ねた。濃厚な甘い香りに誘われ栗間良夫さんの敷地に入ると鮮やかな大輪の花々に目を奪われる。100鉢を超えるプランターに「ユリの女王」と呼ばれるカサブランカが約250本植えられている。「くりまゆり」は栗間さんの名前だったのだ。

20年ほど前、プランター3鉢から栽培を始めたという。立派な花を咲かせようと試行錯誤を繰り返し、現在の栽培方法にたどりついた。1本の茎から26輪のカサブランカの花が咲いた時は見事だったと笑顔で語る栗間さん。しかし育てるには一年を通して様々な作業が必要で、到底一人で出来ることではない。栗間さんの人柄に魅かれ各地から集まった20人以上の仲間が、その大変な作業に協力する。

カサブランカが満開を迎える7月。「くりまゆりカサブランカ祭り」を開催する。イベントステージや、手打ちそばの振る舞いなどもあり、多くの来訪者は華やかな花々に心ませる。栗間さんと仲間の皆さんが、お揃いのピンクのTシャツを着て祭りを盛り上げるという。カサブランカの栽培はシニア世代の皆さんの仲間づくりと生きがいにつながっている。そして地域を超えた交流は、山村の小さな集落に賑わいを呼んでいる。

栗間家の歴史を刻んできた母屋、そして白壁の蔵。そこに咲く華やかなカサブランカは、意外にも落ち着きある日本家屋と調和して、あでやかな景観をつくり出している。

(審査委員 大西友子)



● 事業主体 栗間家カサブランカまつり実行委員会
会長 栗間良夫

● 概要 雲南市大東町西阿用の元会社員、栗間良夫さんは、ご自宅の敷地内で、20名以上のボランティアの方々と共に、一年を通して、約250本のカサブランカ(ユリ科ユリ属)を育てます。そして、毎年7月の第2土曜日(夕刻)には「くりまゆりカサブランカ祭り」を会費制で開催し、地域を盛り上げます。毎年、各地からたくさんの方が訪れ、色鮮やかな花々を楽しんでいます。